

13 高次元における重積分

3次元以上になっても、同様の手法で重積分を定義できる。2次元では長方形 $I = [a_1, b_1] \times [a_2, b_2]$ が基本となったが、 n 次元においては n 次元の直方体 $I = [a_1, b_1] \times \cdots \times [a_n, b_n]$ が基本となる。この直方体の体積は $\mu(I) = (b_1 - a_1) \times \cdots \times (b_n - a_n)$ により定義する。そして、 \mathbb{R}^n の部分集合 D についても、 n 次元直方体でメッシュを入れて、「内体積」と「外体積」を通して D の体積を定義する。講義ではこうした一般論は展開せず、計算法の紹介に留める。

13.1 変数変換について (復習)

例題 13.1. $D = \{(x, y); 0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq x\}$ を極座標変換したときの、 r, θ の動く範囲 D' を求めよ。

(考え方) 片方の変数を固定して、もう片方の変数の動く範囲を見る。つまり、縦線 (or 横線) 領域とみる。

例題 13.2. 例題 13.1 と同じ D を取る。変換 $x = u + v, y = u - v$ のとき、 (u, v) の動く範囲 D' を求めよ。

(考え方) 与えられた不等式から $v \geq (u \text{ の関数})$ を作る。そこから (u, v) 平面に図示して、数式で表す。

13.2 3変数以上での積分

例題 13.3. $D = \{x \in \mathbb{R}^3; x, y, z \geq 0, x + y + z \leq 1\}$ のとき、次の重積分の値 I を求めよ。

$$I = \int_D \frac{dx}{(x + y + z + 1)^2}.$$

考え方) 2変数のときと同様に、累次積分ができる。 $z \rightarrow y \rightarrow x$ の順で計算することになると、積分区間は $x \rightarrow y \rightarrow z$ の順で決めることになる。

まず $0 \leq x \leq 1$

次に*1 $0 \leq y \leq 1 - x$

最後に $0 \leq z \leq 1 - x - y$

例題 13.4. 3次元の球 $B_3(R)$ の体積 $V_3(R)$ を求めよ。

$$B_3(R) := \{(x, y, z); x^2 + y^2 + z^2 \leq R^2\}$$

(考え方) 変数変換も、2変数の場合と同様にできる。3次元の球極座標変換においては次のようになる。

$$dx dy dz = r^2 \sin \theta dr d\theta d\varphi$$

ここで $r^2 \sin \theta$ は Jacobian である。

13.3 ガンマ関数とベータ関数

定義 13.5. ガンマ関数 $\Gamma(s)$ ($s > 0$) とベータ関数 $B(s, t)$ ($s, t > 0$) を次のように定義する (1変数関数)。

$$\Gamma(s) := \int_0^{+\infty} e^{-x} x^{s-1} dx \quad (s > 0),$$

$$B(s, t) := \int_0^1 x^{s-1} (1-x)^{t-1} dx \quad (s, t > 0).$$

注意 13.6. これらは広義積分であるが、与えられた範囲において収束する。

定理 13.7. $B(s, t) = \frac{\Gamma(s)\Gamma(t)}{\Gamma(s+t)}$ ($s, t > 0$).

定理 13.8. n 次元の球 $B_n(R)$ の体積 $V_n(R)$ は

$$V_n(R) = \frac{(\pi R^2)^{\frac{n}{2}}}{\Gamma(\frac{n}{2} + 1)}$$

で与えられる。ただし、

$$B_n(R) = \{(x_1, \dots, x_n) \in \mathbb{R}^n; x_1^2 + \cdots + x_n^2 \leq R^2\}.$$

(計算の粗筋) $V_n(R)$ は「各変数が0以上である $B_n(R)$ の部分集合 $B'_n(R)$ 」の体積 $V'_n(R)$ の 2^n 倍になることを利用する。裏面にある計算より、

$$V'_n(R) = \frac{\sqrt{\pi}R}{2} \cdot \frac{\Gamma(\frac{n+1}{2})}{\Gamma(\frac{n}{2} + 1)} \cdot V'_{n-1}(R)$$

という関係式が得られる。明らかに $V'_1(R) = R$ であるので、 $\Gamma(\frac{3}{2}) = \frac{1}{2}\Gamma(\frac{1}{2}) = \frac{\sqrt{\pi}}{2}$ に注意すれば、

$$V'_n(R) = \left(\frac{\sqrt{\pi}R}{2}\right)^{n-1} \frac{\Gamma(\frac{3}{2})}{\Gamma(\frac{n}{2} + 1)} \cdot V'_1(R) = \frac{(\sqrt{\pi}R)^n}{2^n \Gamma(\frac{n}{2} + 1)}.$$

これより、求める公式が得られる:

$$V_n(R) = 2^n \cdot V'_n(R) = \frac{(\pi R^2)^{\frac{n}{2}}}{\Gamma(\frac{n}{2} + 1)}.$$

まとめ (1) 3変数以上になっても、2変数における重積分の計算手法がほぼそのままの形で適用できる。(2) 空間の極座標変換と、その Jacobian の公式は

$$dx dy dz = r^2 \sin \theta dr d\theta d\varphi.$$

(3) n 次元の球の体積はガンマ関数を用いて表せる。

1月30日。

*1 $1 - x - z$ において z を動かしたもののなかで一番大きいもの。

演習問題 13

問題 1. $D = \{(x, y, z); x^2 + y^2 + z^2 \leq 1\}$ とする. 空間の極座標変換

$$x = r \sin \theta \cos \varphi, \quad y = r \sin \theta \sin \varphi, \quad z = r \cos \theta$$

を利用して, 次の重積分を計算せよ.

$$(1) \int_D \frac{dx}{x^2 + y^2 + (z-2)^2}$$

$$(2) \int_D \frac{dx}{\sqrt{x^2 + y^2 + (z-2)^2}}$$

問題 2. 円柱座標変換

$$x = \rho \cos \varphi, \quad y = \rho \sin \varphi, \quad z = z$$

を利用して, 次の重積分を計算せよ.

$$(1) \int_D z \, dx \quad (2) \int_D z^2 \, dx$$

ただし, D は次で定義される \mathbb{R}^3 の領域である.

$$D = \left\{ (x, y, z); \begin{array}{l} x^2 + y^2 + z^2 \leq 1 \\ x^2 + y^2 \leq 2x, \, z \geq 0 \end{array} \right\}$$

問題

次の積分を計算せよ.

$$(1) \int_D (x + y + z) \, dx \quad D = \left\{ \begin{array}{l} x, y, z \geq 0 \\ x + y + z \leq 1 \end{array} \right\}$$

$$(2) \int_D x^2 \, dx \quad D = \{x^2 + y^2 + z^2 \leq 1\}$$

$$(3)^* \int_D 1 \cdot dx \quad D = \{x^2 + y^2 + z^2 - 2xyz \leq 1\}$$

(3) は力試し用の問題.

累次積分は, 見易さのために $\int dx \int dy$ のような形で書いている. 後ろの積分から順に計算をしていく. また, $\int_{y_1 + \dots + y_n \leq 1} \dots dy$ は $D_0 = \{y_1 + \dots + y_n \leq 1, y_1, \dots, y_n \geq 0\}$ 上での積分という意味. 特に $y_1, \dots, y_n \geq 0$ を暗に仮定していることに注意 (記述を簡潔にするため). また, $r = R/2$ とおく (スペースの都合).

$$\begin{aligned} V'_n(R) &= \int_{x^2 + \dots + x_n^2 \leq R^2} dx \\ &\stackrel{(1)}{=} \int_{y_1 + \dots + y_n \leq 1} r^n (y_1 \times \dots \times y_n)^{-1/2} dy \\ &\stackrel{(2)}{=} r^n \int_0^1 y_n^{-1/2} dy_n \\ &\quad \times \int_{y_1 + \dots + y_{n-1} \leq 1 - y_n} (y_1 \dots y_{n-1})^{-1/2} dy' \\ &\stackrel{(3)}{=} r^n \int_0^1 y_n^{1/2-1} (1 - y_n)^{(n+1)/2-1} dy_n \\ &\quad \times \int_{z_1 + \dots + z_{n-1} \leq 1} (z_1 \dots z_{n-1})^{-1/2} dz' \\ &\stackrel{(4)}{=} r \times B\left(\frac{1}{2}, \frac{n+1}{2}\right) \times V'_{n-1}(R) \\ &= r \times \frac{\Gamma(\frac{1}{2})\Gamma(\frac{n+1}{2})}{\Gamma(\frac{n}{2} + 1)} \cdot V'_{n-1}(R). \end{aligned}$$

式変形について.

$$(1) x_j^2 = R^2 y_j. \text{ Jacobian は } r^n (y_1 \dots y_n)^{-1/2}.$$

(2) y_n とそれ以外という形の累次積分.

また $dy' = dy_1 dy_2 \dots dy_{n-1}$ である.

$$(3) y_j = (1 - y_n) z_j. \text{ Jacobian は } (1 - y_n)^{n-1}.$$

(4) 後ろの積分は y_n に依存していないので, 累次積分はただの積分の積になる. y_n に関する積分はベータ関数でかける.